

宮の上墳墓

宮の上遺跡発掘調査報告書

1994年

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

宮の上墳墓

宮の上遺跡発掘調査報告書

1994年

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会



序

「宮の上遺跡出土品手帳」の著者は、平成元年12月、本村遺跡の小森部一瓦が掛の櫛の木の植え替を手としていて、土中の石器類に觸り当たったことが発見となっています。この発見は、南郷の「本村八幡宮」の奥の西面で南に傾斜した丘当たりのよい所にあり、通称一帯は「宮の上遺跡」と呼ばれ、西から古墳・平安時代までの出土品の多いところであります。

この「遺物袋」の発見の経緯については、本文の裏面の経緯に記されているように、後輩を福岡文化財ではないかと直感された小森氏をはじめ、報告を受けた的確な保護判断をしてくださった関係者の皆さんのおかげであります。

行春音楽祭や東方化廻と福島のうえ、宮福町出土博物館の主催下委員会運営会員、学長教務担当者らが開設時に参画し、小森氏および村文化財専門委員の協力を得て、同年12月25日に開設をしました。その後、平成2年3月に「宮の上遺跡整理」を開始し、4月3月に「壁内に埋蔵された人骨について」全福岡大平原平野の西河岸地区に、それぞれ発見いたしました。また、出土遺物袋を掌の手で手渡す（佐賀県野西小学校歴史）から出雲骨盤を文化庁に持参し、文化財評議会から直撃の鑑定を受け、その結果を報告文にまとめていただきました。

この「遺物袋」は出土実況が明らかで学術界上の価値が高く、しかも平安や朝の初期建築物が完全な形で出土している例は極めて珍しく、文化財としての価値を高く評価されているものです。ここに報告書を掲げし、多くの人々の研究に資することができますことをたいへん願しく思います。開設されたみなさんに心から感謝を申し上げ、開設の意願とします。

南郷町教育委員会

教育長 梶 勝 稔

例　　言

1. 本書は高知県上伊那郡高岡村337号-1番地に所在する室の上越跡内での大正期古墳群調査報告書である。

2. 調査は東文化系の個體により高岡村郷土博物館の協力を得て高岡村教育委員会がおこなったものである。

3. 本書の作成は以下のように分担した。

構成作成 小平和夫・灰井謙

写真撮影 岩佐平蔵(撮影)、スクリプト

図版作成 灰井謙

4. 種表は以下のとおり統一した。

遺物　図 1: 19

遺物実測図 1: 3

5. 本書の執筆は小平和夫(東文化研究所准教授)、岩佐平蔵(高岡村郷土博物館主任)がおこなった。

6. 土器の復元は第一回にお願いした。

7. 遺物調査及び報告書の作成にあたって下記の個體及び個人の方々に御教導・御協力をいたがいた。感謝申し上げる。

○機関 高野熱海市教育文化課・高岡村教育委員会

文化庁文化財保護局考古課

○個人 小島勝一(地主)・西沢寿庵(信州大学国学院)

8. 調査・整理にあたっての出土遺物及び写真等は高岡村教育委員会で保管している。近く活用されたい。

本文目次

序	
著者	
著者	
圖1章　遺跡の文化層	1
圖1圖　地図	1
圖2圖　遺跡構造	2
圖3圖　遺跡的藝術	4
圖2章　調査の結果	
1. 調査に當る經過	5
2. 調査の經過	6
3. 調査結果	7
圖3章　遺跡結果	8
1. 地　図	8
2. 遺　跡	9
(1) 土　器	9
(2) 人　骨	10
圖4章　まとめ	14
1. 宮ノ上城の特徴	14
2. 長野県内における源氏平安時代の城跡	17
引用参考文献	
圖　版	

挿 図 目 次

図 1 図 地形地質図	1
図 2 図 地形地図分布図	3
図 3 図 地形地図分布図	5
図 4 図 地形地図	8
図 5 図 地域上配置状況	9
図 6 図 骨格部位図	9
図 7 図 骨骼断面図	9
図 8 図 土土質地図	11
図 9 図 上伊那地方における奈良時代から平安時代初期の土器	16
図 10 図 伊那谷における古代の墓園	20

表 目 次

表 1 表 地理地誌一覧表	4
表 2 表 墓群内(牛・山地地帯)における奈良・平安時代の墓園	22

図 版 目 次

図版 1	1. 地形地図、2. 地質地図
図版 2	3. 地域上配置状況、4. 土地地図
図版 3	5. 骨格部位図 1、6. 骨格部位図 2
図版 4	7. 骨格部位図 3、8. 骨格部位図 4
図版 5	9. 地域上配置状況、10. 地形上配置状況
図版 6	11. 地形地図地図、12. 地形地図地図、13. 地形地図地図
図版 7	14. 骨格部位図(一覧)

第1章 造跡の立地環境

第1節 位 置

宮の上遺跡は（群岡郡佐土原町）上伊那郡佐土原町5279-1番地、後原の西約400mに位置している。八幡山の南斜面（上）に位置しているところから「宮の上」の地名がつけられたと考えられる。大糸川は、源を大糸原山に拥し、その両岸には何ヶ所かの遺跡が見られる。

調査地は、大糸川沿岸の傾斜地最も上部近くであり、標高700mを示している。

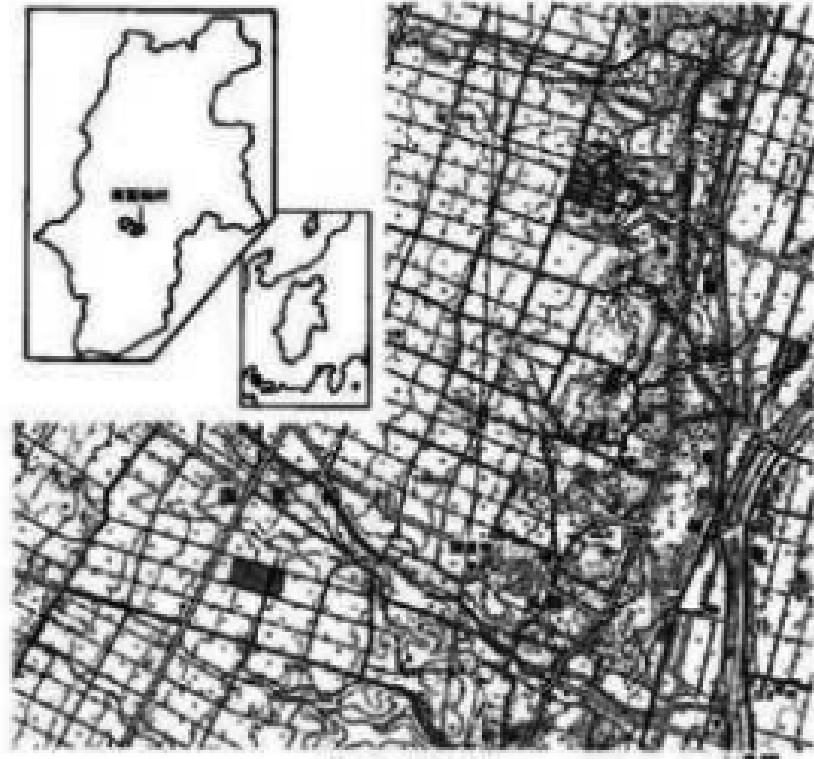


図1-1 造跡位置図

第2回 自然環境

南阿蘇村は、北阿蘇盆地の広く平野な地形に位置し、盆地内に流れる大河川・大清川と一般河川・小河川等によって網目された田舎景観が古びた農業圏跡地・開拓地を占めている。

地形は内々の山地、それに接する低地、盆地内の大河川沖積地となっている。盆地地は西の山のふもとやかな傾斜で、東流する河川を中心にしてはなされた傾斜で、その傾斜にも灌漑や排水による水が見られる。これらの水は製造場所また農園に利用されている。同時に、開拓地も自然の傾斜であるが、急な坂道による凸凹が記録されている。

地質は、山地より運ばれた土によってつくられた疊層が大部分でその他の山には、盆地内によって形成された疊層も観察されている。





图 2 四 岩层构造分区图

第3節 歴史的環境

考古学的な歴史的環境を考えると、吉良町村の遺跡分布は、大きく二つに分けられる。一つは、西端山地帯に沿った芦屋川流域丘陵にペルト状に連なる一帯と、芦屋川に流れ込む支流の大瀬木川・大瀬川・鳥居川等の河原に分布する二つである。

他に、芦屋川冲積層に位置する遺跡地である。北端の鶴林町上郷地区で大瀬川の一角を占めている。

河内において最も有名な遺跡は、神子遺跡であり、神子遺跡大瀬木地区に位置する河内地方初期のものと推定され、それまで古手平野と考えられていた上伊勢の人間遺骨一万字の骨に引き上げる発見となった。出土した石器は、いわゆる神子型と呼ばれる風靡的なタイプで複数されている。

次に、開墾地を含む河の上流域であるが、ここは以前から多くの遺物が収集されている遺跡であり、時代的にも複合し、時代中期・後期の土器・打削器をはじめ、古墳・平安・中世に及ぶ遺物が見られるなかで、遺跡地は注目される遺跡である。

また、古代・中世・近世に亘る歴史も豊富で、東山道の通過、難波往の御崎山の跡等、いかつかの歴史の各種多く歴史を物語っている。

図1表：所辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	地圖	遺跡						備考
			古	新	古	新	古	新	
1	大瀬木遺跡	○	○	○	○	○	○	○	新成上中郷遺跡
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	鶴林町上郷遺跡
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	○	○	○	○	○	○	○	○	新成上中郷遺跡
11	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	○	○	○	○	○	○	○	○	鶴林町上郷遺跡
17	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	○	○	○	○	○	○	○	○	鶴林町上郷遺跡
19	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	○	○	○	○	○	○	○	○	○



●室 / 上	●門 磚	●鐵 鋼	●外 子 壁	●地盤等
●門 磚	●大 木	●鐵	●外 壁	●地盤等
●鐵 鋼	●鐵 外	●鐵 / 木	●上 人 木	●門 磬
●大 木	●山 材 木	●鐵	●外 壁	●地盤等
●鐵 鋼	●人 木 下	●人 山		

圖二四 地盤等分類圖

第II章 調査の経緯

第1節 調査に至る経過

1994年（平成6年）南西端付近の小森原一氏は、自分の墓地にて物の本を植えあるみ、作業を進めていたところ、土中の一ヶ月面から石積みと、それに埋められた骨を見出した。すぐに同氏の村支会対専門委員会木内一雄氏に連絡をとる。木内氏は現場を確認した後、貴重なものと判断し村支会専門委員会事務局に連絡、専門委員会事務局は直ちに現場に赴き、小森原一氏に現地保管の依頼をお願いする。それまでの作業場で発見された出土遺物を収集し、事務局で保管した。引き続き専門委員会事務局文化課へ連絡し、今後の調査をどのようにしたらよいか相談を受ける。それにより、実験町出土博物館専門委員会が先头に発掘調査を実施した。

12月21日午前9時より現地において調査についての協議を実施した後、発掘調査を行った。

第2節 調査の経過

現状を見ながらの走の発掘及び、発掘のために行われたこと等について説明を受けた発掘調査の概要と平面図を描かることから始める。作業中偶然に発見された遺構であるが、専門家の追跡が遅れて、遺構はあまり形を変えることなく残っており、発音部確認状況を、ほぼ確定できるものと思われる。石積みの状況の平面図の説明後、頭り込まれている土層剥離と、石積みの状況を見るために手カット式に剥離し石積みを確認する。直径40cm程の楕丸方面に割られた溝も込み性、表土面から約30cmの奥行きになっている。石積みの作成及び土層の剥離後、石積みを上部から取り除き逐骨器の配置状態を調査する。

外側の土は剥離後は残っており、壁及び裏面壁面にて調査している。壁うちの剥離、無ねじ剥離の調査後、石積瓦びきの跡等を記す。坐骨的な遺存状況が見えて良好で、石積の剥離も上部から力が加わっても骨壘が保護されるように配置してあり、その状況は今回の調査時まで、推測當時のままを保ったと考えられる。この塊が大きく地盤を変えることなく今日に至ったことは、これまで調査やあり貴重な遺構を調査する機会となつた。

第3節 調查組織

◎調查調查員

- 調查組負責人：楊一楓（南嶺村地上博物館學召集人）
- 調查員：廖松、周（南嶺村地上博物館學召集人）
- 導遊員：周春霞（南嶺村地下博物館負責導遊）
潘永平（南嶺村地下博物館負責導遊內勤）
- 傳媒：九人（南嶺村地下博物館負責傳媒）
朱海鷺（南嶺村地下博物館負責傳媒）
- 調查組工作小組：周一（總工）
南嶺村文化財物內容組：尹繼玲、牛、唐詩、周、許國文
羅為慶和、周永一（南嶺村地下博物館負責傳媒）
唐詩、王、周、羅為慶

◎調查調查員

- 調查員：李平、周（南嶺村地下文化遺產檔案工作組成員主導）
楊一楓（南嶺村地上博物館學召集人）
- 導遊員：周春霞（南嶺村地下博物館負責導遊）
潘永平（南嶺村地下博物館負責導遊內勤）
唐詩、周江（南嶺村地下博物館負責傳媒）
羅為慶（南嶺村地下博物館負責傳媒）



第三章 調査結果

第1節 造 構

大黒川左岸段丘上の橋脚は段丘上部に位置している複合地盤。荷重者の過剰な記述によって、中心部の透水性は、比較良好を認っていた。

橋脚の基上部から地表面までは約1~2mと推定されるが、第一層は最近の歴史的堆積が見られる。底に固子層であるが、上面で堅硬な砂質地盤、底面は堅硬な粘土質地盤を呈している。堆積直近で、断面は、不の傾きを考え、わずか前凸が見られる。いずれも縦いて調査している。橋石には、柱状入模様のものを用い、外側は平行を縦に付けて、立ててあるものを見られる。底から二段の石積みが認められ、二段目の中央には、中空大きな空巣が認められ、この空の中央に蓋が設置している。定期的の塗り口施設には平を二段重ねの状態で塗がしてあり、塗の周囲は既成じうの土で保護されている。外側から便道状に配石され、土を入れながら安定させて組んだ状況を推測することができる。石はうるき面に磨かれて、上面は比較的大きな面を平行で塗をする形になっている。これに上り下り時に塗られた塗は確実に施設され、外からの影響を全く受けることなく今日に至ったのである。

なお、石頭に残された石は、軽微の頭を削た。それ等は、頭下の大黒川より運んだものと想われる。



図4図 周辺地図

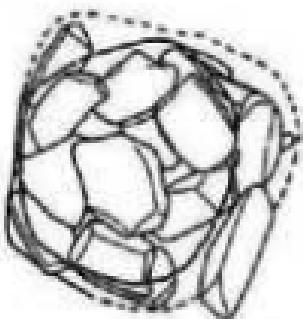


圖 5 圖：齒槽上部配列圖

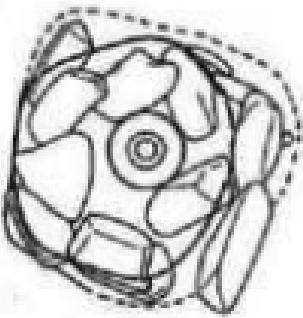


圖 6 圖：齒槽整齊排列圖

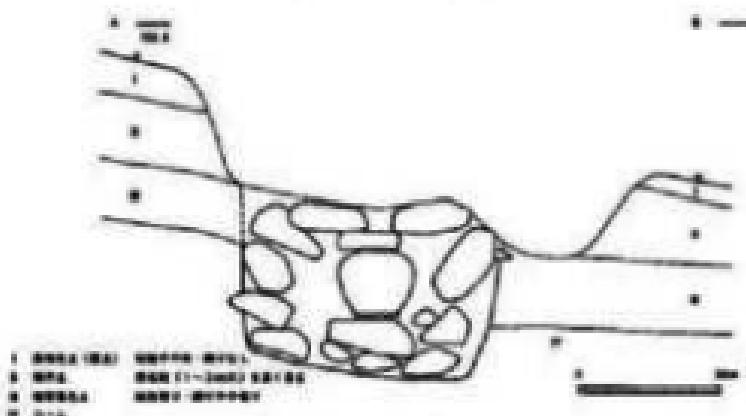


圖 7 圖：齒槽整齊圖

第2節 造 物

(1) 土 壁(漆塗壁)

造物は、漆骨壁本体として使用された漆油物器の漆面と、漆骨壁の邊に転用された漆油物器底三点。他に、大漆油器土中から出土した純土漆點点がある。

造物の記述のなかでも述べたが、大漆油器は3点からなり、漆面の中央に3の次漆油器漆面が重ねられ、次漆油器漆面は漆油器の上に2枚を重ね被せる形で出土した。1が上に、2がその下に重ねられていた。

1枚、口径14.3cm・高さ2.9cm・底径4.6cmを測る。外側は、強く内凹しながらの腰へと直角的に開き、口縁部は玉筋状となる。漆面内部は平滑で、漆膜の疊はない。中央附近に直通する3の重ね漆面がある。漆器外面から漆器下字にかけて、左回りコト＝慶元の御製へテ刷りを施すが、刷りの範囲は広くない。裏面は、ヘテ刷り面に貼付された、いわゆる三月月呂文であるが、内外両面の腰は削除でなく丸味をもつて強く内凹する。裏面調査時のコト＝ナグは、漆器外面中央にまで及んでいる。漆面は、内外面とともに一層の漆毛刷けで漆面上手に行われている。腰は刷りない状态を呈する。

2枚1に貼り合ひに大坂りで、口径14.3cm・高さ3.3cm・底径4.6cmを測る。外輪にやや弱い腰をもって強く内凹する。口縁部は片手で握るように外反し、丸くおさめている。内部漆面は腰字に近い。腰字を刷り付けられた裏面は、漆面漆油状であるが、外にふんばるよう強く開き、漆面には平滑な漆毛刷作って内部の漆面で被覆する。漆面にはコト＝ナグが強く刷る。漆器外面から漆器下字にかけて、漆面ヘテ刷りを施すがその範囲は狭い。ヘテ刷り時のコト＝ナグは直角刷り跡面である。腰は漆緑色の漆のある物で、漆器内面上手と外側にかかる。底土は青瓦漆面で、灰み色を呈する。1～2mmの黑色粒子が散在している。裏面内部には漆面が残らず、直徑1cmの重ね漆面が残る。内面、特に裏面漆面は使用によってつるつるに磨耗している。

3枚が使用によると思われる内面の磨耗が著しいのに比べ、1枚内部の漆面はなく、未使用の可能性が高い。

3の漆油器は、漆器でひび割れなどはない。口径11.6cm・高さ25.4cm・底径16.4cm・側面最高点27.4cmを測る。全体のプロポーションは中央部の腰った、腰圓の形態で、一見して昔の高い印象を受けける。

強く腰った腰圓から、表面に立ち上がる口縁部1.5cmと直角的強く、その腰圓はナグ漆面で丸くおさめられている。漆器から下へ垂げる漆面は、腰を強く直角的で大きな凸の凸部と腰をへて腰圓の切跡を示す。漆器外側に直徑1cm、高さ1cmの裏面が貼付されている。裏面は外に強くふんばる腰状で、内側で磨耗する。

漆器は漆器の腰へテ刷りで腰を覆え、ナグによる磨耗を行うが、漆面に施された漆面ヘテ刷

りの施錆はなく、底面下半から底面上半のは縦断面にまで及んでいる。ヘテ形弓器のマークの施錆は左方向である。

軸け口部から筒身、筒頭に上手にかけて刷毛剥げされ、銀灰色の施錆が筒頭下半にまで一直で剥下している。内面には施錆されていない。底面内面にも施錆が認められるが、量的的な施錆ではないと考えられる。底足は、白色に近い灰白色で、形状、構造、構成も良好である。

頭に見られる、口縁を直線式に仕上げ、あるいは強く外反させる形態、立耳月吹の頭台、刷毛剥げによる施錆などとの相容的、併然的合符は東濃地方における先々尾1号型式の型式的特徴である。また、施錆物の少ない細密な灰白色の胎土も、これらが、直通器であることを示すついている。施錆頭も、肩の張る桶型の形状、刷毛剥げによる施錆など、直通器に先々尾1号型式に属するものと考えられる。



図10 四土生漆羽箭筒

(2) 人骨

宮の上遺跡出土の骨壺に埋納された人骨について。

福井大学医学部

第三解剖学教室 森(氏) 師(氏) 風

①人骨の埋納状況

骨壺内の入骨は、上・中・下部において確認したが、各骨が全く独立する状態で、火葬を行った後の1箇年分を一括して運び上げ、埋納したものと推測される。ただし、下方に手や長い骨の大體部分が多い傾向があるが、腰骨もおむねこの分類している。

骨はことごとく無牙化となり、表面から内部までよく焼けた程度から、焼けずみ色や焼変色・焦色を呈する部位が含まれている。これは生前の骨の位置や、積った火炎の熱度による影響と見られる。また、椎骨に特有な骨の凹凸と同時に椎突や椎板が走り、著しい変形と縮短のため、椎孔など原形を失っていない。

此骨の骨盤中、腰となどの腰椎の骨が残されているが、通常の大腰骨にみられる腰骨などの大腰骨が極めて多い傾向である傾向が認められ、埋納に際しての骨壺の結果とも対応できよう。

②骨の形状

骨壺の埋納できた骨の形態について概要を記す。

頭蓋骨：腰とんどが無い傾向の頭蓋骨部分の骨片で、個別にも多い。

後頭骨：後頭部起の頭部骨が複数の骨片、入字結合で構成している。骨壁は比較的薄い。

側頭骨：側頭部の下頭部の骨部分が認められ、側頭骨はほぼ通常である。顎骨等の一體も存在。

上顎骨：左の鼻腔起の一端で、中切歯から第3大臼歯の歯槽が残る。一部の歯槽跡は骨壺によらず空洞に陥入する。

下顎骨：骨盤(左)の中頸部には第3大臼歯の歯槽が残る。また、臼歯群と半独立する部分もある。

胸骨：胸骨大軸が残存する。底面のヨコメル骨を含む横突の骨は火力により既存性質であるが、本例では歯根も再び確認している。色調は灰褐色を呈する。切歎では共通して歯根が咬合によりほとんど消失し、歯根部近くまで進んでいる。骨盤部が骨壺に露出する。

脊椎骨：椎体・椎弓の小細部分が最も多く残されている。椎体の他の椎体部部分も良く保存されている。椎体の根部に近く保存されている。

上腕骨：両側とも残る骨頭部骨の一端が認められる。

橈・骨：両側の橈骨頭部骨と骨体の一端が残る。

尺・骨：両側の尺骨頭部骨の一端が残るが、大きさは通常であろうか。前臂の小細部分なども認められる。

大腿骨：大腿の骨盤部が最も、腰椎部よりも頸部に偏かれている。骨盤の傾斜は多く、骨盤はきねむらくない。

腰骨：骨盤中央の小部分。

腰骨・腰椎（L1・L2）：それぞれの一端分が認められる。

腰骨：中腰骨・腰椎骨または中腰者・腰椎者の性として腰椎や腰椎が強く強調する。
手・足腰骨もわずかながらある。

その他、各部位に用意する箇所は量的が多い。ただし、高齢年者の腰骨は結構多くなく、腰中への強調に伴い二段的に強調された理由も想察される。

筋肉・筋

骨盤内の人骨は大筋に付着して腰骨と呼ばれる1個部分の筋骨である。腰の下筋に中大筋の腰骨筋が多い筋肉もあるが、腰骨も含めて他の骨片は、腰筋筋の筋膜で固定する筋膜である。腰筋の筋片や腰筋筋、筋骨など腰筋を骨片も指揮され、かなり丁寧に筋骨がなされたものと見えられる。

大筋により骨の腰骨はほとんど消失し、骨の腰骨から判斷される骨筋・筋膜などの内容は不明である。しかし筋片的な腰筋では骨の腰筋による筋肉で骨筋的な腰筋はみられない。女性人骨の可動性ははあるが、まったく運動できない。ただし、腰の筋筋の強度は、筋骨の筋骨に限りかなり進行がいちじるしく、腰骨以降の筋筋が強度される。

第Ⅳ章　ま　と　め

第1節　宮の上墳墓の時期

ここでは、上伊那における古昔時代から平安時代の土器について概観し、宮の上墳墓の時間的変遷を検討し、加えて宮の上墳墓が含まれた地理的上伊那地方における歴史の研究の一環に触れてみたい。

上伊那地方の古昔時代から平安時代前半にかけての土器（古器）の変化は、圓筒形土器にしたる段階で理解できる。詳細な別解に譲るが、土器の種類では良恵院以来から、黒色土器A土器の段階を経て、土器群・灰陶陶器群へと移行する。この間の変化は、須恵器群の様式的変化を軸としてともえられる。すなわち、形態的には底盤が大きく外側が高く立ち上がる形態から、底盤が小さく外側の無い形態へ。また、性質的には圓筒形ヘテ型やハセ型などへという変化である。そして、この変化は、大きく由来者に代表されるいわゆる「藝術的古器」から純・純を中心とした「實際器内の古器」への変化としてもともえられるのである。馬鹿田1号墳跡地を主な対象に、平安22年佐賀郡を主な対象から2世紀前めに、山本御代1号墳跡地を主な対象に触れてみたい。

これに續く、平安時代中期から後半にかけての上伊那における土器種類の変化については、さらに資料の増加を待って検討したいが、佐草平の武藏中源明野の墳墓から、眞野町武入道塚1号墳跡地の土器群を10世紀前半に、内人口通塚2号墳跡地の土器群を10世紀後半に、伊那市月見山遺跡、御手名遺跡の土器群を11世紀前半に、駒ヶ根市武首125号墳跡地の土器を11世紀中盤から後半に觸ることができると考えている。

宮の上墳墓出土土器群は山本御代1号墳跡地にあたると考えられるが、この複雑についてみてみたい。この複雑では、典型的な古代実物跡はすでに確認しており、實物跡出土器Aと實物調査、それに實物跡に代わって復元したクリア調査の土器群で構成されるようになる。この土器群は、これら以降平安時代末まで灰陶陶器とともに實物の作業を含めることとなる。器種は、純A（黒色土器A・土器群）、純・混（黒色土器A・灰陶陶器）で構成される。この複雑に伴う灰陶陶器は、實物では輪・盆・鉢皿・豆皿など、野焼きでは實物跡・短頸瓶・小瓶等で、量的にも非常に多く、伊那谷においてはやはり生漆の生漆を灰陶陶器が占めているといつても過言でない現況である。これらは、純・混での器を実物跡に再現させ、両者を三ヶ月前に並上げ、施釉をハケ塗りで行う丸ノ台1号墳式に属するもので、施釉で白器を呈する胎土から高麗青磁品と考えられるものがほとんどである。純・混1号墳式の灰陶陶器の他の特徴では、施釉を施すやつ、この複雑は12世紀後半に置かれるよう。

次に、この山本御代1号墳跡地の土器をもつ時期の器種の複雑について触れておきたい。こ

の後醍醐は、源氏平安時代のなかで上伊勢において最も多くの住民社が確認されており、奥多賀が住民社に登録した施設といえる。実務町の中通通町や駒ヶ根市の坂井通町など平安時代からの既存的施設で確認するものは施設のこと、後醍醐時代以降奈良時代においても施設とならなかつた河原段丘上や山腹斜面の便利地、山間の小平延地、また、自然地形の便利地などで施設が広がりを更せる。そして、山本御代通路、坂井通路等の分界によれば、この施設の量感は、大型複穴施設を核としてそれに付随する小個の住居社と櫛状施設物址で構成される施設群の量感を示すことが多い。そして大型復穴施設は基盤の土原と、農具・工具・武器などの耕作品、農耕土器を中心し、織物などの手工業をも管理する施設のコントロールセンターの役割を想定させる。り復紀中頃から心懸手にかけての施設の量感と、このような施設構造の構成は、おそらく復々役により、次第に形成した施設群＝「小個住居社」と、それらを複数し新しい村の電力者となつた施設群＝「大型複穴施設・獨立施設物址」という形式でともえもれるので想在かろうか。

このような施設の代表のなかで、宮の上横堀は含まれた。

𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇
𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇	𠂇

第2節 長野県内における奈良平安時代の墳墓

次に、長野県内における奈良・平安時代の墳墓について若干の整理を行なう小結として、

長野県内の奈良・平安時代の墳墓を扱ったものには、すでにいくつもの書れた論稿がある。古くは藤井栄一の論稿があり、最近では近藤謙作氏の大葬墓について発表と講演を行い、藤井栄一、原田芳は土葬墓について考察を行っている。ここではまず、それらの論題に手がつつ、奈良・平安時代の長野県における墳墓の大きさを流れについて整理してみたい。

長野県内、ここでは特に中南信越地方の奈良・平安時代の墳墓について留意したものについて整理してみた。(第2表)

奈良・平安時代の墳墓は、大きく土葬墓と大葬墓に分けられる。大葬墓には、高さのない火葬墓、土西面骨室の大葬墓、有蓋室の豪華な火葬墓などがある。また、土葬墓とされるものも、陪塚や副葬が多様で、かつ骨片が散在することのほうが多で、多くの出現のなかでそれが墓として機能していくかを確定することは困難な場合が多い。ここでは、確かに骨片が散っていたもの、幅員大以上の土坑で豪華なと思われる遺物が出土したもの、棺の存在が想定できるようなもの等を複数として土葬墓として整理した。

さて、これを整理したものが次の表である。

まず、伝統的埋葬形態である土葬墓についてみたい。土葬墓は、奈良時代から平安時代後期を経て存在する。特徴的であるものでは8世紀後半期、9世紀前半期、10世紀後半期、11世紀後半期を除える。長方型あるいは長方形内側で豪華な墓室2メートル以上のいわば定期的なものは、9世紀後半から判明墓例に現れ、10世紀・11世紀を主として確認する。明らかに大葬墓と認定できるものも何例かある。また、副葬品は、通常に上り下りの櫛はあるものの、漆、鏡、馬などの豪華品と、長財袋あるいはミニチュアの骨などの組合せによる土器の副葬を基本とし、それに鏡、馬、財袋などの日常用品を加えるのが一定の形となり、この形式を備えるものは後醍醐天皇である。土葬墓の伴まれる副葬についてみると、豪華な副葬や、台地上に置かれることもあるが、普通墓を過して豪華な副葬されることが多く、副葬からまったく隠された副葬に土葬墓を含むことはないようである。副葬品の土葬墓の外見や内部の構造は、恐らく被葬者の階級をものぐさたるものであろう。

次に、大葬墓は火葬入骨を行った副葬をさすが、土葬墓と豪華な副葬を除かざられないものの立派がある。土葬・豪華墓を除かないものでは、豪華な土坑と石室のものがあるが、石室のものについてほかならずしもその豪華は明らかでない。豪華な火葬墓は、豪華な副葬は廻りで、火葬場が廻にあり副葬を盛めて埋葬したと考えられるもの、火葬場を墓室としたものなど多様である。豪華な地盤の例をみればおそらく後醍醐天皇から出土し、平安時代を通じて存在したと考えられるが土葬墓にくらべない。

開拓帯火葬墓の例は、石室内に火葬場とともに火葬骨を埋納したものである。模式式

古墳の表面にあると思われる石室と、大葬墓の用意室を合せ持った複室として注目される。八角形の御殿式腰廻等から9世紀代の復元と考えられている。複室と仕かけられた空室に墓様を感じしている。

次に、大葬墓空室についてみよう。複室に腰室を持った複室墓は、第2章にあげた3例であり、腰室開口により出土状態が記載されたものは、本例と吉田川西造跡の例のみである。このうち吉田川西造跡は、宮の上複室羽門墓に、天孫内野御殿室を複室室として、複室室と赤色土塚との組合せで施用していた。複室墓は、宮の上複室のものより腰室墓大體が高い位置にある複室で、極めてこれよりやや先行するものである。また、蓋に転用されていた複室室と赤色土塚との組合せも腰室が今後後方から反対設置等で腰室に当たり、9世紀中期の年代が与えられる。岡谷市赤山東造跡の例は、天孫御殿室腰室、小室、側ともに丸光丘庄1号墳式のものであり腰室開口とはほぼ同じ時期と見えられる。併出した馬平玉置の初葬が9世紀であることと併し、青梅町の山越墓から出土した、複室墓の複室、複室室を複室室とした3例も、土室の腰室から9世紀代の例と考えられよう。吉田川西造跡と丸光丘1の例は、複室室の腰室室ではあるが、腰室の大きな形状で腰室は少ない。天孫御殿式の他の複室に近いものだが、在場での複室室腰室の折丁時期を考慮おそれば、10世紀前半から中葉までの時期のなかで考えられよう。以上のよう、大葬墓空室は、今のところ9世紀にさかのぼる複室室腰室は複室でせず、空室は、9世紀で、なかでも9世紀後半の例が多い。10世紀後半以降の例は無い。複室室についてみれば、赤山東造跡、吉田川西造跡の例が腰室内に埋められたと考えられる他は、墓室から離れた山越や、古墳周辺、斜面上などに置かれている。

南北・平安時代の複室の複室としてこのほかに、古墳の遺物と古墳への埋葬がある。伊豆郡では守野村大分御殿室、豊丘村の上古墳などで、複室に9世紀前半まで古墳への遺物が行なわれており、相模平では、相模原町安富吉野御殿室や秋葉原吉野御殿等で9世紀前半まで、古墳の遺物が避けられていたことが知られている。また、古墳の很大式石室を利用した複室が、平安時代をとおして行なわれていたという事例もある。

以上の複室を含めれば、次のようにならう。最晩期において、9世紀後期では古墳への腰室と、土室墓、大葬墓が共存する。9世紀前半では古墳の遺物が行なわれ、腰室大葬墓への腰室も避けられる。土室墓も腰室するが、大葬墓が含まれるようになり、古墳からの過渡的な状況として大葬墓も腰室複室的のように、石室に大葬室を複室する例もある。しかし、複室である土室墓や大葬墓は極めて少なく複室における豪父先祖の複室形態は、古墳が主体であったと考えられる。8世紀後半の複室の複室は明確にはとらえられないが、9世紀の複室は、大葬墓と土室墓によって両極付けられる。大葬墓は9世紀に入って土室複室墓によるものが盛行し、古墳から離れた古墳内外や山越などに置かれることが多い。土室墓は、9世紀後半に至って平成式方形である多くの御殿品を構める複室的な土室墓の複室を認める。そしてこの土室墓は複室内に埋められるのが通例となる。10、11世紀においては、定期的な土室墓が生産で、大葬墓が少く

い。施設内に施設を設けることは時代とかわらない。

唐風・平安時代においては、おそらく一般庶民は簡素な土蔵屋として使われるか、施設を施設や川原などに施設したものと考えられるから、これまで述べてきた火葬場あるいは斎場品を伴う土蔵屋の被葬者は、それぞれの施設において施設の施設的な役割を担った官僚施設など有効者であったと考えられる。同時期における施設の有効者の施設は、9世紀前半では当院への施設、9世紀になって上院施設等に上る火葬場が運営するが多様化半をピークに急速に火葬場は減少し、10世紀以降は多くの斎場品を伴う土蔵屋が生れとなるというのが大きな流れとして理解できそうである。これは、時間的ないずれもあるものの、施設が施設する施設・平安時代の近畿地方の施設の状況と対応できそうである。

ところで、施設・平安時代の大葬場の特徴については、仏教思想の浸透によってもたらされた新しい施設形態の進歩とともに考えられことが多い。しかし、施設としての内蔵の住居者みせなかつた式典から見ると、被葬者の仏教への皈依というよりもむしろ中央施設の施設の変化に反映した、施設の新しい施設形態の特徴という視点のほうが良いのではないか。

多様化半を考えられる宮の上火葬場の被葬者は、既に述べた御寺村高施設のなかで村の施設者となった施設者と考えられ、9世紀に中央で運営に行われた地方にも運営していた火葬場を自らの施設とした。しかしながら、この施設が運営された多様化半には、すでに中央では火葬場は下火になってしまい、この地方でもさらに新しい施設としての火葬場が、新しい村の有効者たちの間に広がりつつあったのである。宮の上火葬場の火葬場は、このようを古代の施設の変遷にあって、一方のあり方を典型的に示す重要な資料といえる。また、歴史的な重要性もさることながら、運営費中の経済的負担でもうながら、その施設の運営によって施設の運営され、さらには、施設者が優秀な型の生産地帯で抽出された例としても貴重な資料といえるのである。

本著者自身を施設するにあたり、遺跡学文化からの火葬場形態について施設者を、私見、概説、解説式からは、施設・平安時代の施設について多くの論点を開いた。多くの学者を聞きながら考察にいかせなかつたの住居者の力不足である。お詫びをし、記して感謝したい。本著者が、古代墓地研究の一つの資料に加えられれば幸いである。

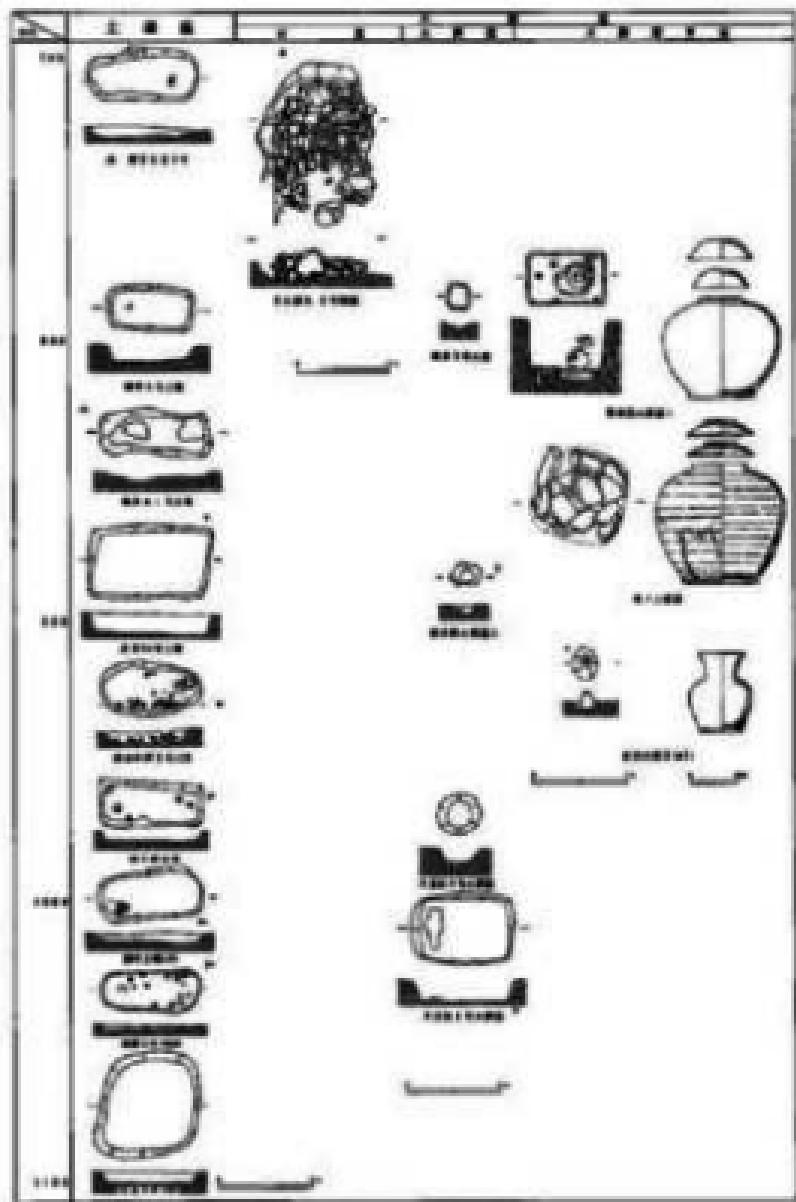


圖168 空想書に記載も古代の物語

参考文献

- 橋本 勝 1994 「近畿における平安朝土器窯の位置」『近畿』28-1
1995 「奈良平安時代の窯跡と貢物」『長野歴史』第3号
高崎 信 1990 「近畿における9・10世紀の窯跡」『研究論叢文刊』奈良國立文化財研究所
小平 駿介 1990 「古代の窯跡」『中央古墳和近畿古墳群文化財保護調査報告書』-松本市内その1- 窯跡編
1993 「上伊那における古代土器の縦断的考察」『上伊那郷土歴史研究』第12号
1999 「上伊那における9世紀後半の窯跡」『上伊那研究』第10号
近畿考古学 1994 「古事記各巻の複数・半個・北頭、伊那『仙胎考古学園講義』第7巻 窯跡
宮丸 駿之 1993 「奈良平安時代の窯跡」『奈良県出土考古学の問題点とその展望』奈良県立埋蔵文化財センター
岸 伸介 1995 「古瓦12種をめぐる問題」『中央古墳和近畿古墳群文化財保護調査報告書』-松本市内その2- 古瓦川窯跡編
1999 「長野県の9世紀後半から10世紀の窯跡群の発掘」『長野県埋蔵文化財セミナー報告』3
藤井 実一 1991 「奈良時代の大野寺窯」『古代文化』12-3

註

- (1) 土器窯各巻に上る大野寺について注。ここに上げたほかにいくつかの報告がある。今朝は、
窯跡群内の窯跡が複数できたものに限ってとりあげてある。
- (2) このなかには、荷窯群の窯跡群が含まれる可能性がある。
- (3) 中南米地方では複数でないが、古墳群の中にさかのぼる例として、複数の土坑式窯を
見たり、複数窯の所、窯を何段も重ね重ねした所が複数窯跡で確認されている。

図2表：各都道府県（中・高齢者）における高齢者・平成時代の概要

都道府県	年齢層	性別	総人口	高齢化率	高齢者	高齢者化率	高齢者	高齢者化率
東京都	65歳以上	女性	12,388,433	25.1%	3,092,107	24.8%	1,546,054	49.9%
東京都	65歳以上	男性	12,388,433	25.1%	3,092,107	24.8%	1,546,054	49.9%
埼玉県	65歳以上	女性	8,034,340	24.4%	1,958,325	24.4%	1,009,163	51.5%
埼玉県	65歳以上	男性	8,034,340	24.4%	1,958,325	24.4%	1,009,163	51.5%
千葉県	65歳以上	女性	7,836,704	23.9%	1,898,676	23.9%	974,338	51.5%
千葉県	65歳以上	男性	7,836,704	23.9%	1,898,676	23.9%	974,338	51.5%
神奈川県	65歳以上	女性	7,702,865	23.8%	1,855,215	23.8%	927,608	51.5%
神奈川県	65歳以上	男性	7,702,865	23.8%	1,855,215	23.8%	927,608	51.5%
群馬県	65歳以上	女性	6,046,151	23.7%	1,436,538	23.7%	728,270	51.5%
群馬県	65歳以上	男性	6,046,151	23.7%	1,436,538	23.7%	728,270	51.5%
栃木県	65歳以上	女性	5,402,757	23.6%	1,261,644	23.6%	630,822	51.5%
栃木県	65歳以上	男性	5,402,757	23.6%	1,261,644	23.6%	630,822	51.5%
茨城県	65歳以上	女性	5,334,756	23.5%	1,250,339	23.5%	615,170	51.5%
茨城県	65歳以上	男性	5,334,756	23.5%	1,250,339	23.5%	615,170	51.5%
新潟県	65歳以上	女性	4,671,165	23.4%	1,098,799	23.4%	549,399	51.5%
新潟県	65歳以上	男性	4,671,165	23.4%	1,098,799	23.4%	549,399	51.5%
福島県	65歳以上	女性	4,505,141	23.3%	1,045,785	23.3%	523,393	51.5%
福島県	65歳以上	男性	4,505,141	23.3%	1,045,785	23.3%	523,393	51.5%
山形県	65歳以上	女性	3,691,105	23.2%	832,276	23.2%	416,138	51.5%
山形県	65歳以上	男性	3,691,105	23.2%	832,276	23.2%	416,138	51.5%
宮城県	65歳以上	女性	3,657,130	23.1%	808,532	23.1%	394,266	51.5%
宮城県	65歳以上	男性	3,657,130	23.1%	808,532	23.1%	394,266	51.5%
岩手県	65歳以上	女性	3,543,268	23.0%	768,267	23.0%	374,134	51.5%
岩手県	65歳以上	男性	3,543,268	23.0%	768,267	23.0%	374,134	51.5%
長野県	65歳以上	女性	3,458,610	22.9%	745,652	22.9%	362,826	51.5%
長野県	65歳以上	男性	3,458,610	22.9%	745,652	22.9%	362,826	51.5%
岐阜県	65歳以上	女性	3,387,365	22.8%	715,143	22.8%	347,571	51.5%
岐阜県	65歳以上	男性	3,387,365	22.8%	715,143	22.8%	347,571	51.5%
愛知県	65歳以上	女性	3,342,082	22.7%	698,020	22.7%	339,010	51.5%
愛知県	65歳以上	男性	3,342,082	22.7%	698,020	22.7%	339,010	51.5%
静岡県	65歳以上	女性	3,278,105	22.6%	665,026	22.6%	323,513	51.5%
静岡県	65歳以上	男性	3,278,105	22.6%	665,026	22.6%	323,513	51.5%
三重県	65歳以上	女性	3,230,116	22.5%	642,928	22.5%	311,464	51.5%
三重県	65歳以上	男性	3,230,116	22.5%	642,928	22.5%	311,464	51.5%
滋賀県	65歳以上	女性	2,988,345	22.4%	587,686	22.4%	283,843	51.5%
滋賀県	65歳以上	男性	2,988,345	22.4%	587,686	22.4%	283,843	51.5%
奈良県	65歳以上	女性	2,926,486	22.3%	554,023	22.3%	267,012	51.5%
奈良県	65歳以上	男性	2,926,486	22.3%	554,023	22.3%	267,012	51.5%
和歌県	65歳以上	女性	2,855,145	22.2%	521,036	22.2%	250,518	51.5%
和歌県	65歳以上	男性	2,855,145	22.2%	521,036	22.2%	250,518	51.5%
京都府	65歳以上	女性	2,819,359	22.1%	490,009	22.1%	235,005	51.5%
京都府	65歳以上	男性	2,819,359	22.1%	490,009	22.1%	235,005	51.5%
大阪府	65歳以上	女性	2,771,938	22.0%	458,009	22.0%	223,005	51.5%
大阪府	65歳以上	男性	2,771,938	22.0%	458,009	22.0%	223,005	51.5%
兵庫県	65歳以上	女性	2,728,605	21.9%	435,009	21.9%	212,505	51.5%
兵庫県	65歳以上	男性	2,728,605	21.9%	435,009	21.9%	212,505	51.5%
福岡県	65歳以上	女性	2,680,533	21.8%	412,009	21.8%	202,005	51.5%
福岡県	65歳以上	男性	2,680,533	21.8%	412,009	21.8%	202,005	51.5%
大分県	65歳以上	女性	2,632,460	21.7%	389,009	21.7%	191,505	51.5%
大分県	65歳以上	男性	2,632,460	21.7%	389,009	21.7%	191,505	51.5%
熊本県	65歳以上	女性	2,584,387	21.6%	366,009	21.6%	181,005	51.5%
熊本県	65歳以上	男性	2,584,387	21.6%	366,009	21.6%	181,005	51.5%
鹿児島県	65歳以上	女性	2,536,314	21.5%	343,009	21.5%	170,505	51.5%
鹿児島県	65歳以上	男性	2,536,314	21.5%	343,009	21.5%	170,505	51.5%
沖縄県	65歳以上	女性	2,488,241	21.4%	320,009	21.4%	160,505	51.5%
沖縄県	65歳以上	男性	2,488,241	21.4%	320,009	21.4%	160,505	51.5%

单号	日期	发货人	收货人	总重量	单据号	发货地	目的地	运费	汇款
0001	2010-01-10	发货人	收货人	20kg	111111	发货地	目的地	120元	电汇
0002	2010-01-10	发货人	收货人	15kg	222222	发货地	目的地	80元	电汇
0003	2010-01-10	发货人	收货人	15kg	333333	发货地	目的地	80元	电汇
0004	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	444444	发货地	目的地	50元	电汇
0005	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	555555	发货地	目的地	50元	电汇
0006	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	666666	发货地	目的地	50元	电汇
0007	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	777777	发货地	目的地	50元	电汇
0008	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	888888	发货地	目的地	50元	电汇
0009	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	999999	发货地	目的地	50元	电汇
0010	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	000000	发货地	目的地	50元	电汇
0011	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	111111	发货地	目的地	50元	电汇
0012	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	222222	发货地	目的地	50元	电汇
0013	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	333333	发货地	目的地	50元	电汇
0014	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	444444	发货地	目的地	50元	电汇
0015	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	555555	发货地	目的地	50元	电汇
0016	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	666666	发货地	目的地	50元	电汇
0017	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	777777	发货地	目的地	50元	电汇
0018	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	888888	发货地	目的地	50元	电汇
0019	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	999999	发货地	目的地	50元	电汇
0020	2010-01-10	发货人	收货人	10kg	000000	发货地	目的地	50元	电汇

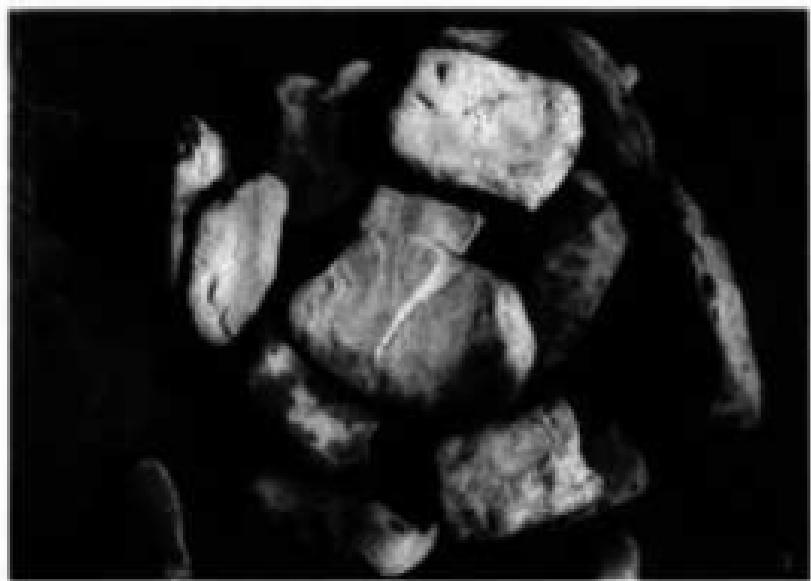
一 観 全 用 文 書

- | | |
|---------------|---|
| 1 湯浅寺村文化振興委員会 | 1993 「湯浅寺村史」 |
| 2 鶴見村 | 1992 「鶴見村史」第1回発行から第4回、「鳥占字」1~3 |
| 3 上伊那郡御嶽村 | 1995 「上伊那郡」 第2巻御嶽編 |
| 4 関町 | 19 「関町史」 |
| 5 長野県教育委員会 | 1993 「中央自動車道長野高瀬郷文化財整備調査報告書」
「長野市内その2~吉田川西道路」 |
| 6 長野市教育委員会 | 1995 「長川流域史」 |
| 7 長野県教育委員会 | 1994 「昭和40年度長野県中央自動車道御嶽文化財整備調査報告書」
「伊那市内その2~」 |
| 8 高遠町 | 1993 「高遠町史」上巻歴史1 |
| 9 長野県教育委員会 | 1993 「昭和40年度長野県中央自動車道御嶽文化財整備調査報告書」
「伊那市西春近~」 |
| 10 長野縣教育委員会 | 1993 「伊那集落整理色別整備調査報告書(第3次実施調査)」 |
| 11 長野県教育委員会 | 1994 「昭和40年度長野県中央自動車道文化財整備調査報告書」
「上伊那郡御嶽町~」 |
| 12 長野県教育委員会 | 1994 「昭和40年度長野県中央自動車道文化財整備調査報告書」
「長野市内その1~その2~」 |
| 13 長野県教育委員会 | 1994 「昭和50年度長野県中央自動車道文化財整備調査報告書」
「伊那市・飯田その1~富士見町その2~」 |
| 14 長野市 | 1995 「長野市史」上巻 |
| 15 鹿児島教育委員会 | 1991 「鹿児島県史」 |
| 16 松本市教育委員会 | 1991 「松町・石上・横川流域」 |
| 17 長野県教育委員会 | 1990 「中央自動車道長野高瀬郷文化財整備調査報告書」
「松本市内その4~西高瀬跡」 |
| 18 長野県教育委員会 | 1990 「中央自動車道長野高瀬郷文化財整備調査報告書」
「松本市内その5~北高瀬跡」 |
| 19 長野県教育委員会 | 1990 「中央自動車道長野高瀬郷文化財整備調査報告書」
「松本市内その7~、飯田町内~飯平、北平、北丸、上平、戸連跡」 |
| 20 長野県教育委員会 | 1990 「中央自動車道長野高瀬郷文化財整備調査報告書」
「松本市内その2~横戸、上二子、中二子御嶽」 |
| 21 山形村教育委員会 | 1997 「山形村史」 |
| 22 駒ヶ根市教育委員会 | 1990 「駒日・道丸・駒村・小林流域」 |
| 23 長野県教育委員会 | 1997 「中央自動車道長野高瀬郷文化財整備調査報告書」
「長野市内~」 |
| 24 長野市 | 1995 「長野市筑摩山上の火葬場跡」「信濃」7~4 |

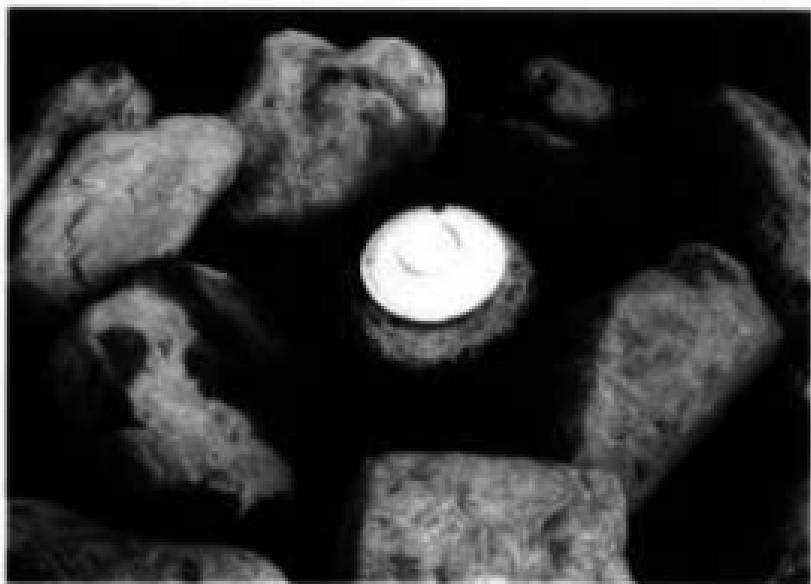
図 版



1. 調查地周圍（西南方半） 2. 調査地周圍（東南方半）



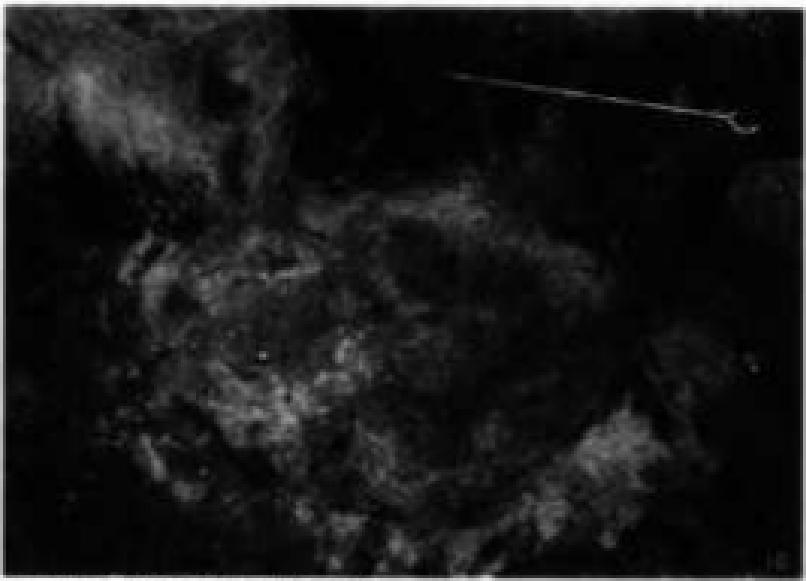
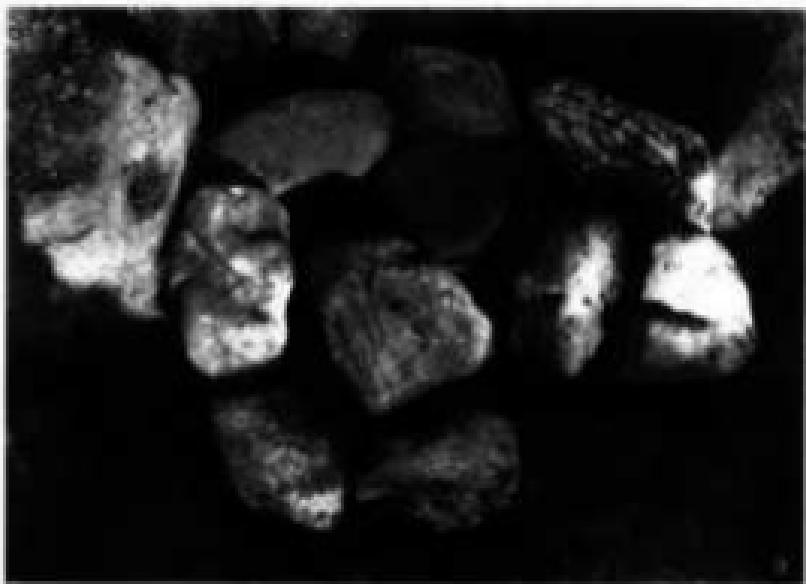
3. 壓縮上膠配毛玻璃 4. 剪短毛玻璃



5. 骨组织状态 1 6. 骨组织状态 2



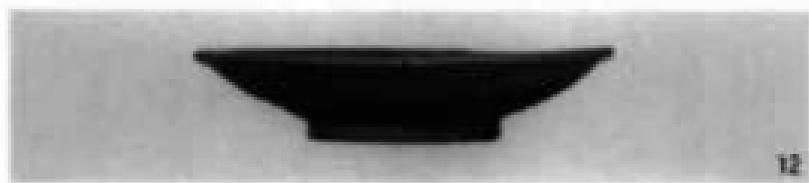
1. 考古遺物 2. 考古遺物



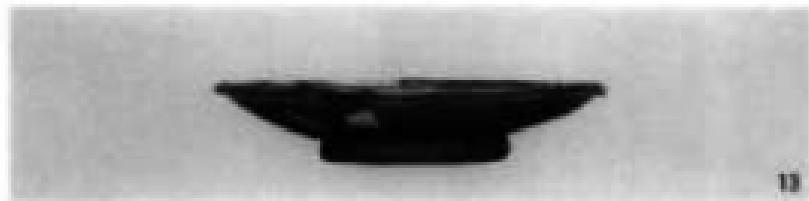
9. 增强细胞免疫组化 10. 细胞形态观察



11



12



13

11. 五代越窑青瓷罐 12. 五代越窑碗 13. 五代越窑碗



14. 鹽寧頭墩頭骨 (一組)

宮の上墳墓

宮の上塗跡免面積登録告白

1994年2月 用紙

1994年2月 発行

発行所 長野県須坂市役所総務課

印鑑所 伊那市 諏訪小学校総務課

